

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	29年度からの2ユニットにむけて、新しい理念を掲げ、職員間で共有し、より良い支援を行えるように見えるところに掲示している。	平成29年度3月に2ユニットになる時、新しい理念作成のため、職員全員にアンケートを取り、その内容を検討し自ら新たな理念を作り上げた。新理念である「安(あ)・楽(ら)・感(か)・輪(わ)」は家族及び地域の方との連携を目指す、法人の方向性に寄り添いながら事業所独自の目指すケアの方向性を示している。管理者はじめ職員は日々のケアの基本として確認し合っている。今後も研修に取り入れるなどして、共有していきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校や中学校の行事に訪問したり、地域の方のボランティアを受け入れたりと交流を図っている。また、自治会費を納め、総会に参加し交流を図っている。	集落で行なわれている地域の防災訓練にも利用者、職員は参加し、自治会等との交流を深めている。また、利用者が地元の小・中学校を訪問したり、子供たちの訪問を受ける形で馴染みの関係が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学校から職場体験学習の受け入れを行っている。地域のお茶の間にお邪魔して、グループホームの活動をお話して、施設で行う健康講座に参加していただく機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、日頃の取り組みや施設内の出来事を報告し、ご意見やアドバイスをいただいたり、地域の情報をいただいている。	2ヶ月に1回の運営推進委員会には市役所・地域包括支援センター・町内会長・民生委員・家族・法人などが参加している。職員は参加メンバーからの意見、例えば「事業所のまわりにもっと花が有った方が良い」等の意見が出たことで、いま少しづつ花を増やしている等、ケアに生かしたいと思っている。	2ヶ月に1回運営推進委員会は行なわれているが、あながち、事業所からの報告だけが多くなりがちである。今後は、出来るだけ提案された意見の取り組み状況や、実践状況を見てもらい、意見交換や2ユニット利用者・家族にも参加して頂き、委員会の方と意見を交流出来るような関係を構築することで、住みやすい地域の中の居場所・拠点となるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村上市の介護高齢室と地域包括センターから、運営推進委員として参加いただいている。また、日頃より訪問時や電話などでも活動状況や問題点を伝え、ご意見をいただいている。	市町村との連携は、荒川支所が近くにあり、日ごろから相談や活動を報告し、地域包括支援センター等との連携も積極的に図り、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修などで、身体拘束しないケアを学び、利用者様の様子や行動を見ながら、行動を制限することなく安全に過ごしていただけるよう配慮している。	マニュアルを整備し、外部研修出席者からの伝達研修での報告と内容回覧を行なっている。今後もより具体的に職員全員が理解しているか等、細やかで具体的な日々のケアの事例等からの学びを取り入れることを考えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、法人内で行う研修で高齢者への虐待防止を学び、伝達研修を行い職員全員が意識して虐待防止に取り組んでいる。日々の業務の中でも虐待につながる言葉や行動を意識して利用者様と接している。	マニュアルを整備し、外部研修出席者からの伝達研修での報告と資料内容回覧を行なっている。管理者は職員の虐待に繋がる言葉や行動に目を配っている。	身体拘束・虐待防止どちらの研修も行なわれているが、研修が伝えるばかりではなく、日々の具体的なケアの様子から職員が考える機会を持つことが必要である。今後は、発見時のフローチャート整備や身体拘束・虐待をしない為の工夫など、より具体的な研修実施に期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加することで理解を図り、必要時には専門分野につなげる支援に取り組み、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を設けて説明し、ご本人やご家族に不安や疑問はないか確認し、ある場合には、なお説明しご理解を得るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、担当職員が手紙にて利用者様の様子を伝えている。また、面会時や電話などでも日頃どのように過ごされているか伝え、ご意見・要望をいただき、運営に反映させるように取り組んでいる。	家族には毎月の便りと共に、面会時や訪問時などのわずかな時間から意向を汲みとったり、生活の様子がわかるように手紙を送りお知らせしている。また、行事の時などに、家族に集まっていただく形で事業所の方針などを伝えて意見をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や要望を出してもらい、業務改善に取り組んでいる。また、職員アンケートや面談も行っている。	法人が行なう年に1回の職員アンケートに記入をし、毎月1回行なう職員会議などで意見を提案し業務改善に取り組んでいる。今回2ユニットになる際に、夜間勤務の時間について話し合われ、職員の意見要望が形になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員など資格手当が拡充しており、資格取得に向けての支援や目標を持って働ける環境を作っている。また、個人的な事情がある場合には、勤務変更などで対応するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や外部の研修に参加できる環境づくりを行っている。スキルアップ研修などのを参加情報提供や会社独自の貸付制度などで資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回のGH管理者の意見交換会、地域の福祉事業者の連絡会に参加し情報交換を行っている。また、年1回のGH職員の交流会を行い、職員同士の悩み等を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や面談で、家族、ケアマネから情報を収集し、本人にも困っていることや望んでいることを伺って安心して生活していただけるケアに繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネからの情報収集と事前訪問や面談等で、家族の不安や疑問を傾聴し、家族も安心できるよう説明することにより関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに見学に来ていただき、本人や家族の思いや状況を確認し、支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業や食事づくりなど提供し、本人の出来ることや役割を持って生活できるよう、支えあい暮らしていけるような関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙に写真を同封するなどして、家族に様子を伝えている。また、誕生会や家族会に参加を呼びかけ、本人を支え合っていく関係を作っている。	面会時や毎月の手紙に日々の様子を伝えている。また、家族の方が足を運びやすいよう色々小さな工夫を職員は実施しており、誕生会でのケーキは職員の心のこもった手作りで、利用者や家族に大変喜ばれている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきの方との関係性を継続できるよう、来訪や外出時の支援を行っている。また、思い出の場所や馴染みの景色などへのバスハイクや外出を計画し、写真を見て語り合うなど支援を行っている。	利用者の自宅や出身地域のお祭りなどへ担当職員とドライブに出かけたり、美容院や思い出の場所など、馴染みの関係が途切れないように個別の支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出・行事の機会など、皆さんで一緒に楽しめる時間を設けたり、気の合う方同士がコミュニケーションをとれるような場を取り持ったり、時には職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも相談や訪問に来ていただけるように声掛けを行っており、家族の方がボランティアに来て下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中や会話の中で本人の希望や思いを聞きのがさないよう心掛けている。困難な場合には、家族から聞き取りを行ったりしている。	入浴介助や日々の会話の中で、利用者本人から直接希望や思いを聞いたり、職員同士の利用者情報の交換時などからも聞き逃さないように収集している。困難な利用者には、家族や親族の面会時等に聞き取りを行っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネから情報をいただいたり、家族からは生活歴を記入していただくなど情報を集め、把握している。入居後も日々の関わりの中で本人に伺ったり、面会時に家族や友人より情報を得るなどしている。	利用者の「事前訪問」、居宅ケアマネジャーの「基本情報」、入居契約時に家族等に記入してもらう「暮らしの情報」などから、これまでの暮らしについて情報を収集し、把握するようにしている。入居されてから兄弟の面会等で知らなかった情報を教えてもらうこともある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を日々観察し、変化が見られる場合は、申し送り簿や口頭の申し送りで情報を共有し、その都度対応できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを行い、計画作成者に提出している。見直しの際には、本人や家族の意向を確認しながら、職員でもカンファレンスを行い実施している。	介護職員2人で2～3名の利用者を担当し、モニタリングを行い、計画作成者に提出する形をとっている。必要に応じてカンファレンスも行いながら、モニタリング、介護計画を計画作成者が作成、実施している。	丁寧にモニタリングは行われているが、介護の視点だけでなく、医療の視点も含め、利用者、家族も参加した中で、実施されることが望ましい。全員参加が困難であっても、それぞれの評価や意向を重視した実施方法の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りにて、情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応えられるよう外出外泊などに柔軟な対応を努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の特養と協力し、地区の祭り行事の訪問を受けたり、近くの小中学校行事を訪問したり、地域の行事に参加し交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による月2回の往診があり、専門医への受診が必要な場合は家族と連絡をとり、スムーズに受診できるよう支援体制を整えている。	かかりつけ医の受診支援に対しては、契約時に家族の希望に合わせて嘱託医との契約をいただき、多くの利用者が嘱託医に診てもらっている。嘱託医は、利用者一人ひとりに合わせた対応をしてくれており、利用者と時折遊んでくれるなど、関係はとても良い様子が窺える。また、各専門医への紹介に対しても柔軟に対応してくれるなど、連携も良好である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており、主となって利用者の健康状態を把握し管理している。体調の変化など、その都度相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状態を情報提供し、様子を見に行ったり、家族や病院関係者より情報を聞いて、退院後もスムーズに施設に戻るような配慮を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に終末期をどのように過ごしたいか、どのようなケアを望んでいるか意向を伺い、嘱託医と面談していただき、施設でできることを伝え理解していただいて、ケアに取り組んでいる。	契約時に重要事項説明書の中で説明し、「緊急時意向確認書」に記入してもらっているが、状態の変化に応じた、家族の気持ちの変化についても嘱託医の助言を得ながら、家族の対応をしている。嘱託医の「本人の思いを大切に」という強い気持ちに動かされ、職員も初心に帰り、できる範囲でベストを尽くそうと努力している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時についての研修等を行い対応している。看護師、嘱託医へ24時間連絡が取れる体制になっている。夜間の緊急時には隣接施設からの協力体制を整えている。	マニュアルには、日中及び夜間のフローチャートも作成され、管理者、看護師はもとより、近くに住む職員2名がベル番を引き受けてくれている為、応援体制がしっかりと整備されている。3年に1回の普通救命研修を今年全員が受講し、実際の場面で活かせるかを把握して行きたいとしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を日中・夜間想定で行っている。隣接の特養との協力体制と、地元の消防団に訓練へ参加いただき、緊急時の協力をお願いしている。地域の防災訓練に利用者とともに参加している。	火災訓練は日中、夜間想定 of 訓練を行い、隣接の特養の職員等が駆けつけてくれる協力体制もあり、地元の消防団も訓練に参加してくれるなど、地域の協力体制もしっかりと出来ている。水害時の訓練を今後備えて準備中である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や人格を大切に、その時に応じた声掛けに対応できるように虐待防止や接遇マナーの研修に参加している。	マニュアルはあるが、入浴や排泄についての記載がない現状で合った。昨年は必要な研修も行われていない状況であったが、今年入社した新人への研修時に配布されたマニュアルには記載されている。	利用者の人権尊重の面からも全職員が共有する必要がある。今後は、マニュアルの整備と研修によるプライバシー確保のケアの共有が実践されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、日々の関わりの中で、本人の希望があればその思いを実現できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望や状態に合わせ、その人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容や床屋への外出緯線を行っている。外出時には洋服を一緒に選ぶなど、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用した献立を提供し、利用者と職員が会話しながら一緒に食事をしている。食べたいものを聞いたり、外食では好きなものを選んでもらっている。また、食事の準備や後片付けなど、利用者ができることに参加していただいている。	「普段左手を使おうとしない利用者が、包丁を使うときには左手も上手に使ってくれる。」と説明を受けた利用者が、実際に野菜を丁寧に切っていた。テーブル拭きや食器拭き等、利用者の能力に応じた準備や後片付けを職員と共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックしている。一人ひとりの状態に応じて、食事形態を変えたり水分を多く摂っていただくなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に各自で口腔ケアを行っていただき、不十分なところを職員が声掛けや支援を行っている。夕食後には義歯を預かり消毒洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て声掛けや誘導で失敗なく排泄できるよう支援している。表情や様子からの排泄サインにも配慮している。	排泄支援は生活記録表で確認しながら、適宜、声かけをしながら、トイレに誘導している。尿量が多く、衣類汚染の回数が多かった利用者に対し、パットをいろいろ試しながらようやく、本人に合ったパットが見つかり、排泄パターンの記録を生かすことで、衣類汚染が無くなった事例など、利用者の気持ちを大切にしたい取り組みを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取に気を付け、排泄に繋がる食品を取り入れた献立や乳製品・粉寒天を提供している。また軽い運動を促している。必要時には内服等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴であるが、別の日に希望がある場合は対応できる体制にしている。一般浴が困難な方のために特浴も完備している。	一般浴と特浴が設置されており、現在特浴利用者は1名で、あとは一般浴を利用している。浴槽のふちに窪みが作られており、浴槽に入っている時につかまりやすい構造になっている。出来るだけ職員の勤務体制に応じた入浴支援に努めており、失禁時等にも洗身するなど多様に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に応じて、日中でも居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしてあり、一人ひとりの薬ケースで管理し、服薬時に名前等を読み上げ内服の確認を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや能力に応じた作業を提供し、尊厳や感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただける場所への外出や、日用品の買い物に出かけたり、地域の行事・学校の運動会や文化祭などへ出かけたり気分転換を行っていたい。また、家族との外出には協力している。	桜、チューリップ、紅葉等の見物は基本的には全員で、花火は施設内で居ながらにして見物でき、個別には、買い物や、誕生月の利用者には、自分の住んでいた町を見に行ったり、家族が外出を申し出た時には、薬や着替えの用意、車の乗降の手伝いや助言を行うなど、またこれからも連れて行きたいと思ってもらえるように支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は職員が行っているが、外出の際には買い物ができるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話をとりついたり、希望時には電話を掛けられるよう配慮している。郵便物を本人に渡し、返事を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りやカレンダーを作成し、飾ることにより季節を感じていただいている。外の景色や花、野鳥の鳴き声などでも季節を感じることができる。	廊下にお地蔵様が飾られていたり、各所に花が飾られてあり、壁面には各月ごとの行事の写真が掲示されており、利用者の笑顔がいっぱいに見られる。窓の外は遠く山々、林の緑、鳥の鳴き声など自然に囲まれ、利用者はゆったりとした気分で過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや畳コーナー、廊下の椅子などで、仲の良い方同士で会話されたり、時には一人で窓の外を眺めたりと思ひ思ひの場所で過ごされている。事務所前にはお地蔵様があり、お参りに行かれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望に応じて馴染みの家具や小物を自由に持ち込んでいただいて、居心地の良い居室づくりを支援している。	利用者はそれぞれにチェストやぬいぐるみ等、好きなものを持ち込み、自分らしい部屋になっている。また、広いクローゼットを希望する利用者にも対応を心がけ、収納も十分取ることが可能となっている。室内は過ごし易いように整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が認識できるよう貼り紙をしたり、本人の出来ることをしていただけるよう声掛け支援している。		